

2023年度 九州体験学習 参加者感想文

🌈 済州高等学校 調理科 2年 キム・ジュヒさん

日本語の初心者だった私は、「日本語でうまく話せるかな？」と心配しながら日本に到着した。ウェルカムパーティーで日本語スピーチを発表することになり、「私、本当に日本に来たんだな」という実感が湧いた。ホストファミリーは良い方々で、気楽に話をする事ができた。韓国から持って行ったプレゼントを渡したら、私にもプレゼントをくださって、本当に嬉しかった。

翌日、ホストファミリーと由布院を訪問した。由布院には韓国人が多く、ここが韓国なのか日本なのか分からなくなるほどだった。私が行った神社は、龍を祀る神社で、済州にも「龍頭岩」という龍の形をした石のある場所があり、龍に祈りを捧げる点が似ていたので、この神社に行ってみたいと思っていた。みんなで神社に行って、教えていただいた通りに参拝をし、おみくじを引いた。私は中吉が出てきたが、全く読めなかったのでどんな内容なのか分からず、漢字の勉強をすればよかったと後悔した。何故、木に縛るのかと尋ねると、「縛っておけば厄払いができる」と教えてくださった。持って行っても持っていなくてもいいが、結ぶのが一般的だということで私も縛ることにした。一番やりたかったことだったので、すごく記憶に残った。その後、周辺にいた韓国の方に頼んでホストファミリーと一緒に写真を撮って思い出を残し、日本のデザートを食べながら別府に移動したが、温泉地域だからか、あちこちから煙がたくさん出ている風景を見ることができた。とても疲れたが、それだけ日本文化をたくさん体験できて良かった。週末には、スリムさんのホストファミリーが私のホストファミリーである純伶の友達でもあったので、4人で一緒に遊び、初めて日本の映画館に行って、日本人になったようだった。映画を観ながら思ったより多くの日本語を聞き取ることができる自分に驚いた。楽しく遊んだ後、こたつの中に入ってホストファミリーと一緒にすき焼きをおいしく食べた。ホームステイの最終日、家族の方々がとてもよくしてくださって、帰りたくないほどだった。

ホームステイが終わって、純伶が通っている学校を訪問した。学生と一人ずつ挨拶をした時に、韓国語で熱心に挨拶してくれる姿がとてもありがたかった。初めての授業で日本文化を体験し、その中に糸編みがあったことに驚き、日本の友達に韓国にも同じものがあると教えてあげた。その後、中学校にも行って日本語スピーチを発表し、韓国に関する質問を受けたが、新鮮だと驚く反応が可愛かった。時間がもっとあったら、もっと話をして、もっと親しくなれたのに、時間が足りず残念だった。窓からたくさんの友達が別れの挨拶をしてくれて幸せだった。その後、九州体験学習に参加した皆と観光し、楽しかった日本旅行が終わった。

「高校生日本語スピーチ大会」は、日本人のネイティブスピーカーの先生の推薦で志願して参加することになったが、一生懸命努力して受賞し、他の人には決してできない経験を高校時代にすることができ、この大会に出て本当に良かったと思った。この経験によって私の夢がもっと確実なものになり、今後成長していくことができそうだ。

✚ 済州女子高等学校 3年 コ・スリムさん

高校生日本語スピーチ大会で特別賞を受賞した結果、九州体験学習に参加することになった。一週間の間、本当に様々な経験をしたが、その中でもホストファミリーとの時間が一番大切な思い出になった。みんなでご飯を食べ、神社を見物し、カードゲームをして、お互いにこっそり準備したプレゼントや手紙を交換した。単にしばらく滞在する外部の人間としてではなく、私を家族として受け入れてくれたと感じ、本当に二度と忘れられない幸せな時間だった。また、日ごろから私自身の日本語の実力がどの程度なのか気になっていただけに、日本の人々と実際に話をして、自分の会話能力を確認することができ、新しく学ぶことができた表現も多かったため、本当に有益だった。

高校を訪問し、私と同じ年頃の友達と授業を一緒に受け、いろいろな話をしたことも記憶に深く残っている。とても多くの人々と新しい縁を結ぶことは、本当に貴重な経験であり、日本の文化に直接接して学ぶことができたことは、私にとって本当に大切に感じられた。その中の数名の友人とは SNS で今も連絡をとっており、これからもずっと縁をつないでいけると考えると、幸せな気分になる。

その他にも、私一人でコンビニで支払いをしたり、注文をしたりすることも最初はかなり緊張したが、日が経つにつれて平気で日本語で会話できていることに気づき、この体験学習に参加したことで本当に多くのことを学んで成長したと感じた。実は、最後の方には韓国語より日本語が楽に感じて、韓国人の友達同士で会話をする時も日本語だけを使ったりもした。

常に新しい人々と、新しい経験をしたいと望む私は、今回の九州体験学習に参加できて本当にありがたいと思った。まだ出会えていないもっと広い世界があるということに気づき、今後、私が生きていく時間が楽しみになるような、そんな時間だった。日本は私にとっても合っていたようで、初日から一週間がとにかく短く感じられ、途中で本当に韓国に帰りたくないと思ったこともあった。ホストファミリーと別れる時も、何がそんなに悲しかったのか号泣してしまい、その時になって縁の大切さに気付いたように思う。別れとは、このように幸せと悲しみを感じられ、ただ悲しいだけでなく新しい出発のためのステップになるのだということにも気づかされた。来年、再来年、そして、これからもずっと、今後の九州体験学習に参加する学生が本当に羨ましいし、私も参加したという事実には大きな喜びを感じる。一週間、行動を共にしてくれたソヨンさんと玲奈さんにも本当に感謝している。

今の私は、日本のことを考えるだけでも幸せを感じられる。一人でも時々思い出しては、もっと素敵な大人に成長し、みんなと再会したいと思ったりもする（実のところ、今後大分に行ったときに会える友人ができたことがただ嬉しいのかもしれない）。みんなが私の夢を応援してくれて、これから私の目標のために頑張る勇気をもたらした。本当に素敵な大人になって、私も私が感じた感情を多くの人々に経験させてあげたいと思うほど、本当に素敵な時間だった！

✚ 西帰浦女子高校 2年 イ・チェミンさん

九州体験学習の初日、少し緊張しつつも、飛行機から見える日本家屋を見て本当に私が日本に来たんだなと感じた。福岡空港に着くや否や、大分のホテルに行って、すぐ日本語スピーチを発表した。パーティー会場の雰囲気に圧倒されてとても緊張したが、日本語スピーチが終わるとほっとした。この時、私がホームステイをする家のホストファミリーに初めて会った。ホストファミリーのお母さんが、私の日本語スピーチを聞いて泣くほど感動したと言ってくださって、日本語の実力は未熟だったが、心からありがたいと感じた。

本格的にホームステイが始まり、高校1年生の妃美姫と電車に乗って大分駅に行き、周辺を歩き回った。ショッピングをして、妃美姫の学校の外観を見てカラオケにも行った。こうして歩き回ってみたら、本当に日本に来ていることが実感できた。夕方にはホストファミリーのお母さんが運営する劇場に行った。村の小さな劇場で子供たちと一緒に演劇を準備していた。幼い子供たちがお互いに意見を出しながら劇を作るのが良かった。この日の晩御飯に焼肉を食べた。日本で食べた食べ物の中で一番記憶に残る食べ物だった。日本に行くなら一度はぜひ食べてみてほしいとお勧めする食べ物になった。お腹いっぱいにご飯を食べて夕方に温泉に行った。村の感じの良い静かな温泉だった。お母さんと妃美姫の前で服を脱ぐのは少し恥ずかしかったが、この機会にやることは全部やって行こうという気持ちで温泉を楽しんだ。そして、翌日起きてすぐに、お母さんが着物を着せて下さった。私たちは着物を着て由布院に行った。由布院では人力車に乗ったが、引っ張ってくれる方もとても面白かったし、乗るのも面白かった。悪天候にもかかわらず、本当に面白く楽しめたと思う。本当に日本に来て初めて体験することが多かった。家に帰ってきた私たちは、一人ずつお風呂に入り、家族みんなで鍋を食べた。夕食を食べながら、家族と多くの対話をし、和気あいあいとした晩を過ごした。

ホームステイが終わる最終日の朝には、お母さんが作ってくれた朝ごはんを食べて急いで学校へ行った。時間がなくて挨拶もまともにできずに別れたのがとても残念だった。学校に到着した後、生徒たちと挨拶をして日本語スピーチを発表した後に授業参観をした。あいにく全て英語の授業ではあったが、私たちが参加できる形式の授業だったので面白かった。中学校でも日本語スピーチの発表と質問の時間があったが、本当にまだ若い中学生たちという感じを受けた。学生たちと別れる時は惜しくて悲しかったが、また会おうという約束をして別れた。

5日目の朝、私たちはサファリに行った。残念ながらサファリバスには乗れなかったが、可愛い動物たちを見て出た。午後には、APU 大学で学食を食べて大学見学をした。一緒に見学した韓国人学生の方々は、広報がとてもお上手で少し見とれてしまった。日本語の勉強を頑張れば入ることができるのではないかと希望を感じた。そのため、進学する大学を決める時に悩むだろうと思った。

大分での最終日の朝には、「うみたまご」という水族館に行って、きれいな魚とペリカン、とても器用なセイウチを見た。そして、昼食で大分駅の中にあるしゃぶしゃぶ屋でご飯を食べて福岡に行った。福岡キャナルシティの中にあるホテルで荷解きをしてキャナルシティでショッピングをした。これまでショッピングをする時間がなかったせいか、残ったお金でたくさん買い物をした。ショッピングを終えてホテルに戻り、お風呂に入りながら、高校を卒業したらお金を貯めて友達と必ずまた日本に遊びに来ようと思った。友達と日本に遊びに行ったらとても面白そうだと思う。

今回、九州を回りながら感じたことは、日本という国を初めて訪れた私にとって、どこに行っても全てがとても新鮮で面白いものばかりだったということだ。そして、みんなとても親切で感動した。ホストファミリーのおかげで二度とできないかもしれない経験をしたし、大分と福岡を回りながら楽しく遊んだ。韓国に帰る日、韓国に帰りたくないほどとても名残惜しかった。飛行機の窓から見える風景を見ながら、日本にまた来たいという思いで韓国に帰ってきた。